

山形市市民活動支援センター連絡協議会 懇談会 議事録	
日時	平成 27 年 9 月 29 日（火） 午後 7 時～9 時
場所	山形市市民活動支援センター 会議室 B
出席 (12 名)	山形市企画調整部企画調整課 課長補佐 原田良忠 様 山形市市民活動支援センター 所長 齋藤和人 様 山形女性医師ネットワーク（池田） NPO 法人環境ネットやまがた（大場） カジョウ・コミュニケーション（吉田（直）、吉田（真）） NPO 法人山形自立支援創造事業舎（齋藤） （特活）まちづくり山形（村中） （特活）しん（安喰） （特活）モルヒネ友の会（藤原） 山形大花火大会サポータークラブ（高橋） NPO 法人山形の公益活動を応援する会・アミル（佐藤）
記録	NPO 法人山形の公益活動を応援する会・アミル（佐藤）
議 題 （次 第）	
1. 開会の挨拶 2. ご挨拶（原田様、齋藤様） 3. 懇談（テーマ「山形市における市民活動の協働について」） 4. 閉会	
概 要	
<p>・山形市企画調整部企画調整課（以下、企画調整課と表記）から原田課長補佐、山形市市民活動支援センター（以下、センターと表記）から齋藤所長にお越しいただき、「山形市における市民活動の協働について」というテーマで、当会役員と意見交換を行った。各出席者が意見を述べた。</p> <p>1. 新規事業「連絡協議会ネットワークプロジェクト」 会長の池田さんから、来年度から新規事業「連絡協議会ネットワークプロジェクト」を行いたいと考えている旨と、その内容についての話があった。事業の目的等は次のとおりである。</p> <p>&lt;目的&gt; ・各市民活動団体の日常の活動がうまくいくように、お互いのことを理解する。 キーワード：情報の共有と伝達</p> <p>&lt;趣旨&gt; ・市民活動団体同士が、分野を越えて協働するための、顔合わせ・情報交換の場を作る。 →市民活動団体同士の、情報の共有と伝達。 ・民間の声が行政に伝わるようにしたい。 →民間と行政の、情報の共有と伝達。 ・将来的には、政策提言もできる枠組みの構築を目指す。</p> <p>&lt;内容&gt; ・各団体の活動についての発表会を定期的に行う。</p>	

理事会と同時開催とする。

分野毎、あるいはテーマ毎に開催し、各団体が参加しやすいようにする。

各団体の悩み・問題を、共有・伝達する。

- ・各団体の協働活動の現況を、共有・伝達する。
- ・協働したいと考えている団体の情報を、共有・伝達する。

## 2. 協働の事例紹介

(特活)環境ネットやまがたの大場さん、(特活)山形自立支援創造事業舎の齋藤さんから、団体における協働の取組みについて活動紹介がなされた。

まず、大場さんから、環境ネットやまがたの主な活動について紹介があり、連絡協議会とのかかわりで様々な活動が生まれたこと、連絡協議会は環境のメンバーだけでない「活動を知ってもらう場」、活動団体相互や市民の「気づきの場」ととらえていること等、話があった。

続いて、齋藤さんから、山形自立支援創造事業舎の主な活動について紹介があり、連絡協議会に加わることで福祉団体だけではなく様々な分野の団体とのつながりができると考えていること、それにより様々なコラボ商品が生まれたこと、利用者の方の特性などをより理解してもらえていること等、話があった。

## 3. センターや企画調整課で把握している協働活動の現況について

センターの齋藤さんから、特に具体例というよりも、センターではすべてが協働だと思っており、問合せ等があればつなぐことを意識してどのスタッフも仕事をさせてもらっている、との話があった。

続いて、企画調整課の原田さんから、企画調整課でも、センター同様、すべてが協働に結びつくと思う意識で業務を行っている、との話があった。

## 4. 新規事業「連絡協議会ネットワークプロジェクト」について

次のような意見が出された。

- ・いきなり政策提言にいくのではなく、まずは交流や気づきの場からスタートしてはどうか。(大場)
- ・まずは他の団体の活動を知ることから始めたらどうか。(齋藤(淳))
- ・それぞれの団体が意識をもって自分から知ろうとしているのか、が大事。(藤原)
- ・自分たちで積極的にやろうとしているのか、それが情報の共有ということだろうと思う。(藤原)
- ・活動発表会をやるなら、人となりや生き方が滲み出てくるものが良いと思う。(村中)
- ・どの団体でもいい話を持っている。それを引っ張りだしていくことが必要と思う。(藤原)
- ・他団体とつながる時に、相手先の団体が何をしている団体かは大事だが、相手先の人があるような人なのかも重要と思う。(村中)

## 5. 協議会のあり方について

次のような意見が出された。

- 相手を傷付けないように表面的にやって揉めずにいても仕方ない。もっと揉めてもいいと思う。(村中)
- 議論がまとまらなくても、意見をぶつけられる雰囲気を作ってもらうのが大事かと思う。(村中)
- 何かの時に役に立つという意識がないと、協議会をやる意味がないと思う。(吉田)
- 労力はかかるが、コンセンサスを取れる場は必要と思う。(吉田)
- 見えないものがあるのが連絡協議会の魅力ではないかと思う。(吉田)
- センターの登録団体という枠がなければ活動できることが多いと思う。(吉田)
- 人と知り合ったこと、活動を知ったことで、できることが広がるので、連絡協議会はとても有意義な場と考えている。(安喰)
- 市民活動まつり等、協議会の活動を見ている人たちが、それをどのように活用しようかという意識にならない限り活性化は難しい。(高橋)
- 何かうまく使えないかと考えている人にとってみれば協議会は宝の山と思う。(高橋)